

事業番号	14 09 10	事業改善シート (26年度実施事業分)			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	競技力向上事業費				担当課	部局	長野県教育委員会	
総合5か年計画	プロジェクト				課・室	スポーツ課		
	施策の総合的展開	7-3 生涯を通じた学びと文化・スポーツに親しむ環境づくり 3 スポーツの振興			E-mail	sports-ka@pref.nagano.lg.jp		
					実施期間	S53 ~		

1 事業の概要

目指す姿	県民のスポーツに対する関心とスポーツ活動への参加意欲を高めるため、オリンピック等の国際大会や国体等の全国大会で活躍する競技者を育成・強化し、競技力の向上を目指す。		
現状 (予算編成時)	○競技団体は本事業を活用して継続的な競技力向上に取り組んでおり、その結果、優秀な競技成績を収めている団体も見られる。しかし、より安定的な競技力の維持・向上のためには、各競技の特性に応じた一貫指導体制の整備や指導者の養成など競技者育成基盤の整備が必要である。 ○国際舞台で活躍する選手を育成するためには、海外での競技経験や一流選手と競技経験が必要であり、2020年東京五輪開催は、県内各競技団体にとって、更なる競技力向上に向けた取り組みの強化を図る絶好の機会である。		
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】 社会体育振興事業補助金交付要綱	
県民との協働による実施: 検討中			

成果目標・事業内容	① 成果目標 (H26)					
	国民体育大会の総合順位10位台を維持し、H29年度には15位以内を目指す。また、ジュニアの強化を図り、H29年度に国体ジュニア・インターハイ・全中の入賞者数200人を目指すため、毎年6人程度の入賞数増加を目標とする。					
	② 事業内容 (単位:千円)					
	項目	実施方法	H26事業実績	H26 (当初)	H26 (決算)	H27 (当初)
	競技力向上事業補助金(国体選手強化)	補助金	各種競技大会で入賞を目指すための活動に対する助成(競技用具整備への助成含む)	70,050	70,050	70,050
	競技力向上事業補助金(馬匹管理補助)	補助金	県有馬の管理に係る経費への助成	1,920	1,920	1,920
	冬季国体開催に向けた特別強化	補助金	本県開催予定の第72回冬季国体に向けた強化			20,000
	オリンピック育成支援事業	補助金	東京オリンピック等で活躍する県内のトップアスリートや有望競技への助成	10,190	10,190	10,190
	マルチサポート事業	補助金	ドクター、トレーナー、栄養士等を選手の合宿、国体等に派遣して行うコンディショニング調整への助成	2,066	2,066	2,066
	ジュニア競技力向上事業	負担金	各競技団体への負担金(合宿及び対外試合による強化事業)	16,388	16,388	16,388
長野県冬季アスリート発掘・育成事業(SWANプロジェクト)	負担金	SWANプロジェクト実行委員会への負担金	3,501	3,501	3,501	
合計			104,115	104,115	124,115	

事業コスト	区分(単位:千円)	24年度	25年度	26年度	27年度	成果目標の達成状況					
	前年度繰越					項目	H25末(実績)	H26			H27目標
	当初予算	104,358	105,358	104,115	124,115			目標	成果	達成状況	
	補正予算					国体総合成績	17位	17位	20位	未達成	16位
	合計(A)	104,358	105,358	104,115	124,115	ジュニア入賞者数	182(人・団体)	186(人・団体)	191(人・団体)	達成	190(人・団体)
	一般財源	100,358	102,290	102,604	124,095						
	県債										
	国庫支出金										
	その他	4,000	3,068	1,511	20						
	決算額(B)	104,307	105,358	104,115							
概算人件費	職員数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30						
概算事業費(B(A)+C)	概算人件費(C)	2,477	2,477	2,477	2,477						
		106,784	107,835	106,592	126,592						

目標に対する成果の状況	国体での獲得得点は、前年より5.5点の減であった。入賞あるいは3位表彰台まで紙一重の競技があり、大きく競技力が低下したわけではない。 冬季大会スキー競技会においては、男女総合・女子総合優勝し、冬季大会終了時点では、1位との差を縮めて2位の位置を維持している。ジュニア入賞者は、中学生・高校生ともにスケート・スキー競技での活躍により目標を上回っている。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 本事業を活用して、競技団体は継続的な競技力向上事業に取り組んでおり、その結果、優秀な成績を収めている団体もある。さらに競技成績の向上を図るため、指導者の育成、一貫指導体制システムの構築に向けた支援を行う必要がある。 ジュニア層が夢と希望を持てるよう、国際大会等で活躍する選手育成に支援する。また本県開催の冬季団体では、地元の選手が活躍できるよう支援する。
--------------------	---